

平成22年度北上市地域貢献活動企業功績賞表彰式 協働のまちづくりフォーラム

2011年2月4日（金）14:30～17:00

会場：日本現代詩歌文学館

参加者：150名

1. 開会

2. あいさつ

北上市企画部 八重樫民徳

地域貢献フォーラムは今回で3回目の開催をすることができました。

本日、株式会社一ノ蔵 代表取締役名誉会長の浅見紀夫先生を講師にお招きしまして、「地域と企業の連携による地域おこし」と題し、ご講演を頂きます。

表題にありますように、今日企業の皆様方による地域貢献活動が大変注目されて参りました。企業と地域住民との連携による協働の考え方、今日の地域の在り方に大きな変化をもたらしてきたと思っております。

特にも、私どもの北上市は企業誘致を積極的に行い今日の発展に繋げて参りました。たくさんの企業の皆様に今日の北上市のまちづくりを支えていただいております。

各地域での社会貢献の活動によって、市民の安全安心、環境美化清掃、環境保護、人材育成などさまざまなかたちで豊かな地域づくりにご尽力を頂いて参りました。

私どもはこのような企業の皆様の社会貢献活動に、感謝と敬意の気持ちをささやかながらも表すために、功績賞を設けさせて表彰させていただくことに致しました。

本日、3回目の表彰式となりますが、今後とも協働地域貢献のもと、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、各社皆様方におかれましては 益々のご発展されますことを申し上げ、終わりにしたいと思います。本日は誠にありがとうございました。

3. 基調講演

「地域と企業の連携による地域おこし

—発酵産業によるまちづくり—

講師：浅見 紀夫 氏

株式会社一ノ蔵 代表取締役名誉会長



〇はじめに

ただ今ご紹介に頂きました、一ノ蔵の浅見紀夫と申します。今日はこの大変素晴らしい会に招いて頂きまして大変ありがとうございました。お役に立てるかわかりませんが、所作して頂きます。

一ノ蔵は、昭和48年（1973年）4歳で企業合同してつくった会社ですから、この業界ではまだ37年とい創立年数では「0」が1個少ないというくらいの歴史でございます。その会社をつくる時に、大変岩手県にお世話になりました。といいますのは、44年に自主流通米製造というお米の流通が変わりまして それから酒屋の我々が自由競争という規制緩和に入っていくわけですが、その時に企業合同を起こしなさいというのが国の政策でした。それを積極的に進められたのが岩手県の酒造学者でありました。華々しく各地域で企業合同や共同施設をつくって参りました。その旗を振って参りました方が高蔵の酔仙酒造株式会社の当時、水野さんという社長さんでした。岩手県酒造組合の会長を務めたりもしました。

宮城県は何をやっているんだと勉強会で叱られ、それをきっかけになり 我々もやろうとはじまったのが「一ノ蔵」ということでございます。

NPOとかいろいろの関係のところのお付き合いを結果として一緒にやることになりましたが、私自身あまり積極的に立ちあがることはないのですが、今までの経験を通しまして若干でもお役に立てればと思ってやっています。

私自身はもともと酒造メーカーで、戦前は駅前で酒をつくっておりました。戦災にあいました。戦前のブランド名がいろいろありましたが、「元気正宗」といいあまり情緒ある名前ではありません。戦災にあい、全焼しましたので昭和30年に復活して 今の泉区というところに新たに蔵を建て直しまして、昭和48年に一ノ蔵というのが歴史の辿りになります。それではお手元の資料の順に従えながら一緒に画像を見て進めてまいりたいと思います。



〇一の蔵の設立

一ノ蔵はお酒のメーカーですから、農村といろいろと関係がありましたので、そのへんの考え方や片方で各地にあった醸造醗酵産業がどんどん衰退していく結果、農村の需要減少と繋がってきているという話をしたいと思います。

これからこの世の中、どのように一ノ蔵が進んでいくのか、あるいは地域連携など今進めていることでもありますので、そういうことを話させていただこうかと思っています。食に絡むところというのは、企業や農家と一緒にやっているだけではダメで、私達の普段の食生活も実は変わらないと難しいという

ふうに考えていて、社会運動的なことも一緒にやっつけていかないと難しいのかなとその話をさせていただきます。

〇設立と社会背景

一ノ蔵は48年に設立致しました。松本酒造店(松山)、桜井酒造店(矢本)、勝来酒造(塩釜)、浅見商店(仙台)の4蔵で設立しました。当時、私はまだ結婚する前で27歳でした。現在は大崎市になりましたが、旧松山町に今所帯を持っております。もうひとつ蔵がありまして、金龍蔵であります。ご縁がありまして非常に小さな蔵ですが、手づくりでいいお酒をつくっていたというのがありまして、この蔵を借りてうちの酒を仕込むということです。本社蔵と金龍蔵は全く好対照の蔵でありまして、本社蔵は地元の社員だけで現在、10カ月程年間稼働しているという仕組みです。金龍蔵は岩手の杜氏さんだけで冬場だけ仕込む、従来の仕込みをそのまま使用して高級酒だけを製造するといったかたちでやっております。

時代としては高度成長期ずっと続けていた時、昭和39年の東京オリンピック、昭和45年の万博、そういう中でずっと日本の経済高度成長を続けてきてその時に、工場はそれまでは地方から金のたまごと称して、中学校・高校生を卒業と同時に中心部工業地帯に呼んで就職していたのですが、地方に工場を分散してきたのが時代の流れです。その流れと農業の不振というのが、オーバーラップするような感じではないかなと思います。

大きな意味では、日本の経済が工業生産的な仕組み図の大量生産、大量消費に変わってきた。

例えば大手食品メーカー、ビール・日本酒も含めてそうなんですがどんどん出てきました。醤油メーカーなど寡占化していくという時代でもありました。全国どこでもそのブランドの味を味わうことが出来てきたのがこの時代でありました。

一迫金龍蔵、築館から西に入ったところです。冬場3ヶ月間程しか仕込まないという蔵です。松本本社蔵は9月に始まり6月いっぱい酒造りをして、7

月半ばから8月は夏休みということになります。

○地方醗酵産業の衰退

農村の農地がどんどんなくなってきている。宮城県にいても工業用地で全部が田んぼをつぶすわけではないのですが、工場団地をつくって逆に農業する場所がどんどん狭まってきていく。

市街化区域、調査区域の拡大があり、だんだん人が住み、商業が進出し、これも農業が狭めていく要因になっている一つかなと思います。

醸造産業、醗酵産業が淘汰されていったわけです。食品関係が集中していき、地方の小さな醗酵産業がどんどんなくなってきていて、これが一番、農業の活性を削いだ大きな原因かなと、一ノ蔵をつくった時に議論したテーマでもありました。逆にいうと、原料供給を地元でし、醸造醗酵産業を地方で頑張れば農業振興につながるのかなと思います。

北上市は9万3千人と聞きました。大崎市も13万人程ですが、5年前に合併を1市6町でしまして、面積は非常に広いのですが、だいたい土地の私有化課税地の中の半分が山林で4割が農地、残りが1割宅地、工場そういうようなことですから、ほとんど農村地帯ということですから、やっぱり農業の振興に力を注いでいかないとと思うわけです。それからすると、北上市は自動車産業とかいろいろな産業がたくさんあり、農業の活性化というよりも逆にまちの活性化というものはすばらしいものがあるなと思っております。

○関係する微生物

醸造醗酵産業と簡単に申し上げましたが、いろいろあります。

お酒はお米が原料で、麴菌、酵母でアルコールにするわけです。焼酎は米焼酎、麦焼酎、芋焼酎、雑穀というようないろいろな原料があり、同じく麴菌を使って酵母を使って蒸留にするわけです。ワインは、原料はぶどうを使いますがこれは糖分がありますから、酵母だけで済むわけです。酵母は自然界にたくさんあり、ぶどうを潰しほっとけば醗酵アルコ

ールになる。醗酵としては非常にシンプルなお酒になります。

味噌・醤油も同じです。地域によって違いますが、基本的には大豆、小麦か米かです。これも麴菌で倒潰してタンパクを分解する。乳酸菌がからんでいて独特の風味がする。酢も醗酵食品です。酢の原料はお酒です。お酒は何でもいいんです。日本酒でもいい、ビールでもいい、ワインでもいい。酢酸菌と同じ酸っぱさでも、乳酸菌、酢酸菌の2種類があります。これで酢になるということです。

麴カビで、鯉節の本枯れ節という緑色のカビみたいなけずる方ですね。あれは鯉を煮て、干して、種つけし麴菌を生やすんですが、これも種類としては日本酒で使うような麴菌の親戚のカビなのです。このカビを繁殖させることによって鯉の中の身のタンパク質をアミノ酸にうまみに変えていく。麴菌を繁殖させる時に水分を必要としますから、魚の中の鯉の中の水分をどんどん吸収させて 世界で一番堅い食べ物にするわけです。

その他、ヨーグルトは牛乳、やぎの乳などいろいろありますが、これは動物性の乳酸菌でつくる。同じ乳酸菌でも伝統的な醗酵でつくる漬物の場合は、植物性の乳酸菌でつくる。納豆は大豆からつくりますが、世界で最強の菌ということで私達は毛嫌いしている菌です。昔は原料のほとんどが全部、地場調達していたわけです。ですから、地域には相当需要があったわけです。

○醗酵産業の変遷

昔から醸造醗酵産業が地域にありましたから、地域で農産物の生産をしていたということですが、それが高度成長期時代に大手企業がどんどん寡占化されていきましたので 原料調達がその地域でなくなってしまったわけですね。

例えば北海道で調達する、価格のことがあり輸入に切り変えることで日本の農業が厳しい原因をつくっていった。ただ全てのものがそうではなくて、今でも残っているのは味噌なんですね。味噌はたくさ

ん種類がありまして、我々の地元では仙台味噌がありますが、これは米の赤味噌。たくさんの塩を使用し、長期熟成するので赤くなる。麦白味噌というのは、あまり塩分を使わないで仕込む。あまり熟成させない。これは甘さの特徴があり、すぐ食べてしまう。麦麹味噌、同じように塩分を使わず熟成させない。麦赤味噌は塩分を使って熟成させ色が付いてしまう。例外的なものは、豆赤味噌。豆だけの麹で仕込む。こういうかたちですと、大手メーカーがなかなか出づらいついていところがあります。地域、地域で大手メーカーが出ている。そのメーカーで地場産を使えば農産物も生産が上がるというわけです。

一方、お酒について申し上げますと、戦後 規制緩和で自由化されたことも含めて、お酒メーカーが地方から姿を消してしまっています。全国で 1955 年から昭和 30 年、その時が戦後一番ピークだったのですが、4000 場越えて酒屋があったのが、2008 年で 1800 場。一番新しいデータの 2001 年の場合 1300 場というふうには減ってきている。1/3 に減ってきている。宮城県の場合は、70 場が 30 場に減ってきています。岩手県は 22 場か 23 場。これは廃業等もありますが、共同化しているようです。一ノ蔵は 4 件が集まって 1 件になるので、3 件減るといったようなかたちです。逆に味噌醤油について調べてみましたら、宮城県では 1947 年昭和 22 年 228 場組合員数があつたそうですが、現在、50 場。これだけ醸造醱酵産業が姿を消しているというわけです。

○手づくり適量生産と高品質酒への特化

一ノ蔵はそういう中で、醸造醱酵で我々が頑張つて農業の活性化で進行をしようとはじめました。大手メーカーさんと同じようなことをやっていたのは難しいというので、差別化をいろいろ考えました。一つは南部杜氏流の手づくり伝承で、手づくりのお酒をつくつていこう。南部杜氏さん方に 10 人位の蔵人の方々にお手伝いをしてもらいました。

現在、金龍蔵で仕事をして頂いているのは紫波町の方です。本社蔵で一番最後に努めていただいたのが、花巻市出身の方でその前が北上市出身の方と、

我々は代々、岩手にお世話になっています。なかなか後継者不足ということで、今、本社蔵は 100% は地元の人間です。

もう一つは手づくり適量生産。手づくり技術を活かす時には、生産ロットをあまり大きく出来ない。ぎりぎり管理出来る量ということで、3,000 キロ。白米を 3 トンというのが最終的に仕込むのが限界かなということでやっています。大手蔵産業では工業生産的にお酒をつくる技術を開発されている。何十トン仕込みもつくるとというのが普通です。

現代の製造方法としては、伝統方式という伝統的な方法、これは一ノ蔵でもやっている方法です。

それから、伝統省力化。伝統的ではあるけれども、麹作りとかで前方の仕事がありますので小さい規模では人の対応が出来ないというのがあり、ここだけは、コンピューターで麹の管理でやってもらう。基本的には伝統的な方法です。

それから、工業生産式。工業生産方式は、だいたい大手産業ではこの方式をとっておりますが、我々はお米をそのまま蒸かし、麹をつくりますが、これは工業生産的には非常に効率が悪いわけですね。それで技術革新がありお米を全部粉にしてしまう。粉にしお湯で煮て、おも湯の前の状態です。酵素剤という液化酵素でおも湯状にして甘い汁にし、そこに酵母を入れて液化してしまふ。現在販売されているパックのお酒は全部そのような生産方式でやっていると考えて頂いていいと思います。ですから、あのくらいの価格の差が出てくる。うちのお酒の一番リーズナブル商品のお酒と比べても、1/2.5 くらいの価格になっています。

アルコールメーカーですが、醱酵食品も面白いからやってみようということで現在あま酒もやっております。年間販売しております。もともと夏場も飲まれていた飲料ということもあり、市場をもう一回見直してやってみようかと思っています。

○地酒専門販売チャネルと顧客接点重視

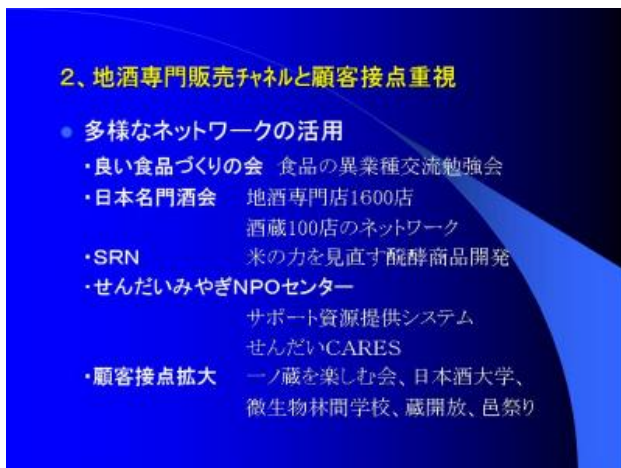
そういうことをうちの会社だけでやれるわけなくて、いろんな方々と多様な情報ネットワークを

得たり、勉強しながら商品開発をしながらやってきました。

ひとつは良い食品づくりの会です。食品の異業種交流勉強会であります。

これが一番のメインであります、日本名門酒会という、各地の美味しいお酒だけを集めて販売するネットワークがあります。ちょうど一ノ蔵をつくって間もなく出来た組織のネットワークですが、これに早速入らせて頂きました。現在、地酒蔵専門店だけで全国 600 店程あります。また酒蔵だけで 100 社くらい入っておりますが、そういったネットワークです。各地にあります、そこになんでもあるというわけではなく、各地域のそういった地酒を一生懸命推奨販売していただく。そういった方々のおかげで一ノ蔵もそこそこの実績を残すことが出来たのかなと思います。

また、SRNという、酒やライスパワーネットワーク。お米の力をもう一回見直した商品開発をしようと、先程申し上げたライトタイプ商品の姫禅やすず音などの醗酵技術もこのグループで開発しながらやってきた商品です。



もうひとつは、せんだい・みやぎNPOセンターです。NPOセンターとの関係というのはこれまで随分といろいろとご指導とヒントを頂きました。

我々がつきあっておりますNPO団体、主に農業関係が多いんですが、その方々とのおつきあい方を勉強させていただきました。そのことも含めてNPOセンターでやっているサポート支援提供システムというお金とか人とかを活用する仕組みで私もお出

せていただいております。

せんだいCARES というのもNPOを地域に紹介するお祭があるんですが、そちらの方にもださせていたいただいております。

○お客様との接点

なんといっても地酒はお客様との顧客接点が一番大事でありまして、コマーシャルをやるという時代ではなく、顧客接点というところを大事にしていこうというのが会社の方針でございます。

例えば、「一ノ蔵を楽しむ会」というのが各地にあります。一番大きいのが東京で33年になります。一ノ蔵はじめて間もなくはじめて会なのですが、現在は会員数が5千名程。そのうちの3千名程は年1回のパーティーにいらっしゃいます。現在は椿山荘を使っていますが、お酒だけのパーティーですが一晩で1千人、二晩で2千人。あと千人方はお断りせざるを得ないという状況になってはいますが、そういう方々と顔を合わせながらいろんな情報交換をしていこうということです。

日本酒大学もやっています。3月の第4土曜日、一泊二日で蔵の中に入って頂き、座学、体験、きき酒のトレーニングで日本酒に関することを勉強して頂くというものです。これも30年程になります。定員50名で毎回申し込みが多い状況です。

微生物林間学校ですが、小学生高学年向けの夏休みの課題勉強のようなもので、30名程に微生物について勉強してもらおうというものです。お酒ということにはいかないものだから、顕微鏡で虫菌の菌や手を洗わないとこういう菌が繁殖するとか初歩的なことをいろいろと勉強して頂いています。最後には、パン酵母と清酒酵母の両方でパンをつくっていただく、お酒になじむのかなあと思ってやっております。

蔵開放は、3000人程1月の第3土曜日にやっております。秋は「邑祭り」をしております。

○農業振興の成果（製造と原料米使用量）

普通酒、パックなどのお酒は1.8リットル（一升

瓶1本) つくるのに、玄米は600グラム必要になります。一番基本的な純米酒の場合は1.3キロ。我々は、お酒一升は米一升と教わりました。あとはいろいろ地下熱や精米関係で若干変わります。これにアルコールが入っていくとその分お米の使用量が減っていきます。普通酒は600グラム、本醸造は900グラム、ライトタイプは1キロ。吟醸酒の場合は精米を高くし、たくさん削りますので、玄米2.2キロくらいのお米でやっと一升のお酒が出来ます。

うちの場合には本醸造、ライトタイプ酒、純米酒、吟醸酒しかつくっていませんので、そうとうのお米の使用量が増えています。会社つくってから現在まで約製造販売数量は約5倍になりました。使用する玄米の数量は8倍になっております。それはこのところの高品質のお酒をつくっているからということになります。これをオール純米酒にしていくと、うちのメーカーではあと500トン購入しなくてはということになってきます。2千トンが2500トン、だいたい1ヘクタールで5トンのお米が必要になってきますから、500ヘクタールの田んぼが必要になってくることになります。

一ノ蔵は他の全国と比べますと、純米酒が30%程、本醸造が60%、ライトタイプが10%ちょっと。全国は、純米酒が15%、本醸造酒も17%と似たような比率で両方合わせて30%程。普通酒は70%とここをいくらかでも純米酒に近づけていけばそうとうのお米の消費が増えるはずです。

これは仮定の話ですが、全国のお酒をオール純米酒にしていくと20万トンのお米が必要となってきます。4万ヘクタールの田んぼが必要。ピンときませんが、宮城県の場合は40万トンのお米を収穫しています。田んぼの面積が8万ヘクタールということです。

〇一ノ蔵農社

一ノ蔵は農社をつくりました。このきっかけは平成5年の大凶作です。この時にお米がないと我々は商売あがったりなんです。これは大変だということで、やはりいいお米をきっちりつくっていかない

と我々はどうしようもないということで、早速感心を高めて「松山酒米研究会」という会を開いて地元の若い農家の方々と一緒に立ちあがりました。お酒に必要なお米はどのようなものかいろいろ勉強して、これが一部、契約栽培になりました。

時に同じくして、大凶作の後宮城県でNPO環境保全米ネットワークという組織が出来上がりました。究極は有機栽培製法になりますが、環境にやさしい米づくりとはどういうことかという活動をはじめた団体です。この団体とのおつきあいということで私どもも信用されています。



そのあと、NPO田んぼという蕪栗沼という沼が田尻町内にありまして、そこが冬季灌水農法という冬は水をはり沼と同じようなスタイルにして、渡り鳥がそこをねぐらにして夕方戻って来て、朝飛び立つという活動をするんです。夜寝ている間に排泄したものが土の栄養になっていく。それで有機栽培にしていくという農法です。

そういうことで農社ができ、農社が一生懸命米をつくっていますが、当初一ノ蔵は自分でお米をつくってお酒をつくるのかと批判もありました。先程申し上げました通り、とても500町歩田んぼを買わないと今のお酒ができませんので無理な話なんです。

うちとしてはそうじゃなくて、有機栽培とかいろいろな農法とかありましたけれども、そういうことを農家の人にもお願いしても、リスクがありますから簡単には受け入れてもらえないんです。では我々がやりますので、見て頂いてそれでよろしければお願いいたしますというかたちの実験農場になります。

現在は6ヘクタール程あります。減反法も同じようにやらなくてはならないので、そのところは伝統野菜の仙台長なす、そば、大豆などこのような野菜をつくっております。

○松山町醸華邑構想「醸造醱酵産業集積で農業振興」

松山町を当初から醸造醱酵産業で農業の振興を図ろうと考えておりましたもので、松山町の方々とぜひ一緒にやってくださいと話がありました。企業誘致は小さい工場の服飾とか電子関係で維持していたわけですが、田んぼを潰したりしていたわけです。その分田んぼが少なくなる。そうじゃなくて、工場誘致を醱酵産業に限っていただけませんか、逆にいうと、醸造醱酵産業で松山町を活性化してくださいと提案をさせていただきました。

凶作のあとの農社をつくった時に、松山町醸華邑構想という名前で特許を頂きました。それから醸造醱酵産業で我々、一ノ蔵が進出し、そのあと漬物の鬼丸という会社（本社が北九州）が進出しました。仙台味噌醤油（大豆・米）は仙台から移転してきました。こういう農産物を使った会社が揃ったわけです。現在、鬼丸は会社が倒産しましたので今は松山にはございません。そんなふうにして農作地に変えていった状況です。

その時に松山町がコンセプトでつくっていただいたのが、「醸造と花と歴史の香るまちづくり」。松山は伊達藩の茂庭周防のまちでもありますので、歴史があります。そういうことも含めてついた名前でした。醸造邑構想のその象徴的な施設として松山町に酒ミュージアムを町の方でつくっていただきました。華の蔵物産館という二つの建物をつくっていただきました。

当初町営だったのですが、大崎市になると同時に外部に募集しようとなりましたが、一ノ蔵がずっと支援してきましたので、現在は一ノ蔵の方で指定管理者として管理させていただいております。

○一ノ蔵経営理念

平成4年にお酒の級別制度が廃止をされました。

それまでは特級、1級、2級とあったのですが、それまでやってきたことをまとめ経営理念として社員に示しました。

6、一ノ蔵経営理念

平成4年制定

（後段）・・

人と自然と伝統を大切にし

醸造醱酵の技術を活用して

安全で豊かな生活を提案することにより

社員、顧客、地域社会の

より高い信頼を得ることを使命とする

前段、後段とありますが、後段にこのようなことを書かせて頂いております。「一ノ蔵は人と自然と伝統を大切にし、醸造醱酵の技術を活用して、安全で豊かな生活を提案することにより、社員、顧客、地域社会のより高い信頼を得ることを使命とする。」

地域でおいしいものを食べていただく。微生物ですから自然は大事なんですね。農業も環境にやさしいというのはそういう意味で我々が支援しています。伝統、お酒も伝統的なものがありますが、我々日本人の食生活そのものが、地域で伝統に根ざしたものがありますからそういうことを大事にしていきたいなと思います。

あとは醸造醱酵の技術をこれからもっともっと活用していこうと、決してお酒だけじゃないところがあるのがうちの会社の特徴なんです。安全で豊かな生活、主に食生活を意味しているわけですが我々のつくっていく安心安全で地域にそういうことで進めていけばと思います。豊かな生活、安いお酒をたくさん飲んで酔うだけでなく、お酒をひとつの生活の糧として楽しんでいただこうという提案をしています。

社員、顧客、地域社会。順番は普通の会社と違うかと思いますが、社員のためにやっていることですから社員の意見を聞く、待遇をしっかりとる。最終的には活動の積み重ねが、地域から社員が高い信頼を得られるのかなと思います。毎朝、朝礼の時に全

員で唱和させていただいています。

〇一ノ蔵の今後

今後、一ノ蔵をどうするかということですが、現在 経営方針の中に「一ノ蔵型6次産業の実現」をテーマにして経営をやっております。

一ノ蔵型ですから、どう6次産業（農業に貢献していくか）に、高品質のお米つくりの対応化を図っていくのがひとつの方法です。なるべく同質化、大量生産大量消費化になってから、大手メーカーや大手流通業者がたくさん出てきて、売っているものが全国どこでも同じという現象になってきているわけです。そういうところから我々中小企業が脱却していかないと、それに勝てないだろうと戦略としていています。

大量生産純米酒に対して手づくり高品質のお酒。吟醸酒を代表されるようなたくさん精米しながら上品できれいなお酒になって、それで消費者を増やしたのですが、その反面メーカー同士の個性を無くしてしまったのは一番大きな問題点だろうと思います。

技術がたくさん蓄積されてきていますので、あまりお酒を磨かない。悪いというわけじゃなくて、こういうことをやりますとお米の特徴がよく出てくるんです。

ワイン的な酒づくり。実際うちの新品として、掌（たなごころ）というお酒を出していますが、非常に複雑な味があるというかたちです。そういうところが清酒の個性か、蔵の個性か、米の個性か、そういうところを大事に考えていくと、もう一回考えなきゃならない新しい市場のなのかなと思います。

あとは新市場酒で、ライトタイプ酒、発泡酒、どぶろく。昔はお酒の味が地方によって違っていました。今、南部杜氏が当社の酒づくりを行っています。風土に合わせた酒づくりです。淡麗なお酒のつくり、灘の酒づくり、四国のお酒づくりとか、広島風とか、杜氏が各地域にありましたのでその風土の中で特徴的のあるお酒をつくってきたわけです。それがここまで技術が進んでくると、どこの蔵でも南部杜氏流のお酒づくりが可能になってきているわけ

です。それが個性をなくして日本の市場を狭めているのかなと思います。なるべくいろんなお酒の開発をしようということです。

もうひとつは、醗酵食品の製造と支援。あま酒を年間出荷発販しております。酒仕込み用の麴を使っておりますので上品な甘みということで、若い方からはあまり甘くないと言われてしまいます。その中であま酒というのは麴菌がつくるいろいろなアミノ酸やビタミンだとか非常に栄養豊富です。江戸時代から夏場にあま酒というのが出てきて、冷房も何もない暑い夏を江戸庶民はあま酒を飲むことによって滋養強壮として暑い夏を過ごしたわけです。現在にあわせてやっていこうということで夏場冷やして、冬場温めて飲む。私は牛乳で割って飲むというのが推奨であります。そういうような新しい飲み方も提案しながらやっています。

酒粕は健康食品としてNHKで放送されてから一気になくなった商品でもありますが、非常に体にいい食品です。メタボによく効くものがたくさん入っているといわれています。

糠。糠漬けは今でも南の西の方は、福岡県の築城町では漬物博覧会とか糠床の養子縁組とかあって、50年とか100年とか永遠と糠を継ぎ足して自分のところの味を保っているわけです。娘が嫁入りのときに持たすという嫁入り道具の一つとして入っていましたし、また養子縁組では他の方に自分のところの糠をおすそ分けしたりして、今でも盛んにやっております。今では自分のところで糠漬けを家庭でやっている方は非常に少ないなと思いました。松山町の婦人会に行きましたら、ほんの1割程の方しか糠漬けをご自分でご家庭でやっている方はいなかったんです。自分でやりますと、野菜はほとんど地場調達というのが多いですから、農業振興に役立つわけです。乳酸菌などもあって健康にもいいわけです。そういうことを復活させていきたいなと思っています。

地域によっては、魚の糠漬けがあります。ふぐやさば、いわし、越後さば、越後いわし。石川県の金沢、となりの福井県にそういった糠漬けがあります。

それと糠抱きという料理方法があります。福岡県

北九州市の小倉の方にいわしの糠抱きという料理方法がありまして、栄養のあるものを、昔の日本人は上手に利用してきたんですね。

酢は、原料はアルコールです。酢酸菌が酒との関係で同じ敷地内でやらないというのがありまして、将来は地域の酢をやっていききたいと思っております。岩手にも酢のメーカーが小規模ではあると思いますが、何社か酢をつくっているメーカーがあるはずで、これから美味しい酢をつくることで地域の活性化に繋がるのかなと思っています。

○宮城県内総生産

地域と連携をしながらどう活性化していくかということ。

宮城県は農業県なのですが、県内の総生産額は84,685億円（平成18年）。1次産業の農業はわずか2%足らずです。2次産業の製造業では22%しかなく、約80%がサービスの3次産業で、比率が非常に高いのです。ここは1次、2次産業は頑張っていかなきゃならないと思っています。

農業だけでみますと1,832億円。水産業も結構ありますが、それでも800億円くらい。農業も水産業も原料出荷がメインで、加工が入っていかないというのが宮城県の問題です。農業の内訳でいきますと、米43%、畜産36%、野菜15%になります。

○農商工連携の具体的施策

農商工連携を考える時には、農業をきっちりやっていくというのが一番の前提であります。私は宮城県食品工業の協議会の会長を務めていますが、オールみやぎの食品づくりというのはそこで進めはじめていることであります。

なるべく宮城県産の食品でやっていきたいと思います。ということですが、簡単にはなかなかいきません。

お酒の原料米をすべて宮城県産かということ、そうじゃなくていろいろと加工の問題、麴をつくる時の種麴は秋田県、京都から買ってくるのか、そういうところはどうかという細かい問題があるのです。しかし、宮城県産のものを使っていかないと農業振

興に繋がらないということになりますので、これから大体的に進めていきたいと思います。

もうひとつは、一ノ蔵があります大崎地域を醗酵で元気にしていきましょうということです。

現在、醗酵に関しましては全国醗酵のまちづくりネットワーク協議会というのが出来ておりまして、3年前に秋田県の横手がスタートです。横手のあとは福島県の喜多方や、去年は長野県の本曾町で約全国10都市程ありまして、それぞれ情報交換しながら醗酵で産業起こし、商品開発をやっているわけです。

去年、本曾町に行きまして驚いたのが漬物に塩を使わない乳酸菌だけの漬物があるんです。「すんき漬け」というものです。赤かぶの葉だけ仕込むのですが、塩を使いませんから雑菌が繁殖して普通出来ないものですが、前漬けたものを種にしてまた醗酵させていくということなんです。伝統的に山の中は塩が貴重品ですからそういうことになったらしいのです。それだけ頂くとただ酸っぱいというだけなんです。それだけ食べるという食べ方はしなくて味噌汁、蕎麦汁にどっさり入れるということで出汁に酸味が際立って美味しく頂けるというものです。

それだけ醗酵というのは地域、風土に密接に関係したもので、逆に個性があるものです。私達は大崎の個性を大事にしていこうと考えております。

今年の11月に全国サミットを大崎市でやることが決まっています。大崎は東西に陸羽東線が走っており、そこを醗酵路線にしたいと考えていました。関係施設として旧松山町に酒ミュージアムがありますが、ここを醗酵ミュージアムにリニューアルをと考えています。

もうひとつは岩出山町に感覚ミュージアムというのがあるんです。ここは味覚の五感をテーマにしたミュージアムです。密接な関係がありまして、醗酵と感覚というのは非常に大事で日本は世界有数の醗酵の盛んな国なんです。昔の江戸、室町時代に醗酵産業の今までの連携ができていたがその時代に閉塞危機など何も無い、温度計など何もなかったわけです。それを目に見えるようにどう管理していくかって言う時に、職人の感覚で管理してきた

わけです。手で触って温度は熱いか・ぬるいか、蒸したご飯を触って堅いか・やわらかいか、しけっているか・乾燥しているか、臭いは変なおいではないか・いいにおいをしているか、麴をつくった後、栗を蒸かしたような香りがあるかどうかなど全部職人の感覚で管理してきた、そういう意味では感覚と葛藤というのは表意一体の関係です。

もうひとつは、環境保全農村ですから環境にやさしい地区にしていきたいと考えています。ラムサール条約指定してきたのはご存じだと思います。日本で一番最初が釧路湿原で第一号に指定されました。そのあとが、伊豆沼・内沼（栗駒市と登米市にまたがる沼）、化女沼ダム（大崎市）、となっていますが白鳥の飛来地で知られています。伊豆沼が日本で二番目のラムサール条約指定地されたところです。

そのあと蕪栗沼（田尻）。何年かあとに立ち入りで指定されました。蕪栗沼の時に初めてその小さな沼だったんですが、その周辺の田んぼは元は沼で開拓されて田んぼにしたんですが、それをもう一回、田んぼの中に冬場に水を張って水深 10 センチあると野鳥は他から何も入ってこないというので、夜そこで安心して休めるのだそうです。そういうのが沼の面積の3倍程あると思います。鳥からみれば冬場の田んぼも沼も同じということですね。そういうふうにして有機栽培のお米を仕込むということです。そのあと2年前に化女沼（古川）も指定されました。3つ同じ県にあるのは非常にまれです。その2つが大崎市にありますのでこういうところと気にして、ぜひこれからもやっていきたいと考えています。関係する団体方々とのネットワークというのは非常に大事になってくると思います。

○ふゆみずたんぼ

参考までに、一ノ蔵が冬水田んぼを購入して仕込んでいる「ふゆみずたんぼ」というお酒です。

去年仕込んだのは全部完売してしまいました。ふゆみずたんぼは交流団体のNPOの田んぼ、NPO環境保全米ネットワークの場合、有機栽培米の仕込んだ純米酒を発売して売れなかったんです。その時

にせんだいみやぎNPOセンターとその雑談の中で、有機栽培というのは意外とNPOに関係する方がたは非常に関心が高く、普通の方はあまり関心がない。普通の酒やに持っていてもなかなか売れなかったものが、NPO関係の方がたに話をすると「飲む」とか「じゃあ、お土産に持っていく」とかで売れ出してきたというのがひとつあります。

その中から、本数に応じて売り上げの一部をNPO環境保全米ネットワークとかNPO田んぼに寄付をするということをやっています。そうすることによってNPO活動の資金も楽になりますし、その還元する方がた（主に農家）に、このお酒はわたしの関係する冬季期間農法で取れたお米で仕込んでいるんですよというPRをしていただく、そういう口コミが一番効くんですよというアドバイスをいただいたというのもNPOとの関係です。

○食に関する関連用語

食に関する言葉というのはたくさんありますが、実はきっちりと正確に理解できていないのがあります。

地産地消、その地域で探してきたものはその地域で消費すると我々は使っていますが、もともとは農水省が地域内食生活向上対策事業といって、栽培農業産物の多様化を進めていた運動の名前です。地域でお米だけじゃなく、いろんなものを栽培する。従って、自分のところでいろんなものを食生活が賅えるというスタイルの提案化したものです。それがうまく進んでいなかった、地産地消という名前が一人立ちして使われている。

スローフード。スローフード協会は世界中の組織ですけれども、伝統的な食材を守っていこう。あるいは味覚、ファーストフードで味覚がおかしくなっている、それをもう一回地域の食事で味覚の再教育をしましょうと。ここらへんから、食育という言葉が出てきました。スローガンの中であるいは2次産業の中で小規模生産者を保護していきましょと、どうしても大規模のところに寡占化していきますので食のバラエティを守っていくためには結

局、地域の人たちのためになるということをやっています。このスローフードが味の箱舟として、食材を指定しております。岩手にも2つ程指定された商品ものがあります。

フードマイレージ。輸送エネルギーですね。輸入した食品というのは長い距離、舟や飛行機で時間をかけて運ばれてきます。そういうマイレージをかけて、食べ物のことを考えていこうというものです。外食の関係など距離が長くなっていく、あるいはファーストフードの関係で距離が長くなっていくその見直しのきっかけにしましょうとやっている。

身土不二。もともと仏教用語だそうです。基本的には地元の食材が、実は身体にいいんだという寒い国の人間には、寒い国で出来たものを食べると身体にいい。逆に寒い国の人々が冬場に暑い国のものを食べると体温を下げるという逆効果がある。野菜の食べ方で、冬は根菜類といいますが根っこの部分は身体を温める作用があると言われております。しかも地域で取れた野菜を食べると身体が一番いいという話です。そういうことを考えて食事をするということが、地産地消の意味合いも絡んでいるというわけです。

○女性の社会進出と食事の変化

今の世の中、女性の方の社会進出があって豊かな社会を築いてきたということもありますが、それで失いつつあるものがあるという意味でみていただきたいと思います。それまでのほとんどの女性の方は結婚すると家庭の中におさまっていたわけです。今は外に出ているので、食事を自分でつくらないで外食にする、あるいは完成品を買って家庭で食べる(中食)とか、調理済みの完成品を買っていくとなりますと、ごみが出なくていいのですが味付けが均一になっていき家庭の味がなくなってしまふ。調理工夫もわからなくなってしまふ。家庭でお母さんから教わった調理工夫もいろいろあるのですが、伝承されなくなってきている。もっとひどいのは、子どもたちの食事の教育が出来ていない。おふくろの味というのはもっと素朴で、季節のものをきっちり食べる

というのが大事な食事なんですね。

そういうことを見ていて心配しているいろいろやっている方々がいます。食育はフランスで出来た時代認識と運動なんです。フランス料理の三国清三さんや女性の方もいらっしゃいますが、その方々が音頭をとって、キッズ・シェフという子ども達に料理をつくらせるという、その時に4つの味を甘い、しょっぱい、酸っぱい、苦いをテーマとして教えて作らせ食べさせるというものです。10歳までの間にその4つの味を覚えないと、感覚(味覚)全体が発達しないとと言われております。ですからそのところが非常に今大事だと言われております。大事なところを家庭内食事から外食、中食へという関係で、みんな失くしている問題的呢なものです。

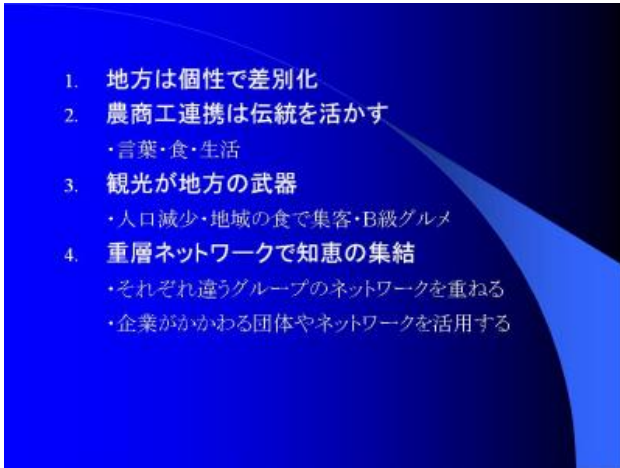
もうひとつは学校給食の現実という本があります。これを見ますと、今の学校給食はこうなのかと思います。場所によって違うと思いますが主食、副食がみんなバラバラですが、副食が主食になったような感じで子どもが食べやすいようなものだけつくっていく。そういうことだけやっていると、感覚教育に繋がらない。これは大事です。

日本の伝統的な食事というのは正座で箸で食べる一汁二菜、ご飯中心にいろんな季節のものをたくさん食べていくとこれが今一番すばらしい食事の仕方と言われております。

豊富な食材。これは宮城の鈴木先生がおっしゃったことですが、「日本ほど豊富な食材はない。」ヨーロッパでは2,000種類、イタリアあたりに行きますともっと多いのかもしれませんがヨーロッパは北ですから、仙台でイタリアのシシリ島の辺りですから、いかに寒いところかとわかんと思います。だから同じものを食べるしかないのでもいろいろ味付けを変えるとか、ソースを変える技術が進歩してきたわけです。東南アジアでは10,000種類、日本は12,000種類。四季折々で、日本は北から南まで長いですから作物の種類が違うんですね。

これぐらいあるという話ですが、こういうのがあから一汁二菜のご飯を中心にして四季折々のものを食べていくと身体にいいというわけです。こうい

うことを考えていかないと、我々がいろんな食品を開発してもなかなか難しくなっていく、受け入れてもらえないということになります。これを社会利用としてやっていけないなと思います。



○地方の風土と知恵を活かす

地方の風土を活かしていこうと思います。今、調味料というと昆布とか鰹節とか椎茸とかありますが、これは関西から来た新しい歴史で、昔は魚の焼き干しや宮城県の三陸では、ほやを焼いて出汁にしました。私も作って食べましたが非常においしいです。醤油というのは江戸時代からきたんですが、こういうのが出来る前は、酒の中に梅干しを入れて煮詰めていくそれが調味料になっている。白身魚に付けて食べますと非常に上品で美味しいものです。今でも高級料理店で出しているところもあります。こういうものを発掘してやっていくというのが大きな力になっていくわけです。

野菜も大量につくられる、手軽につくられるそういう品質改良がされてきましたが、それがかえって地方の特徴をなくしている。逆に伝統野菜を見直していく。松山のがぜん芋、お花見の時に非常に太くてでかい、しかし柔らかい里芋の一種なんですけど、ほくほくした美味しい芋です。こういうものが残っている間になんとかしていきたいなと、こういうものを使って商品開発に活かしていくということを考えています。先程も言いましたが、岩手では岩泉町に短角和牛、一年間放牧しっぱなしという牛の飼育方法があります。オス1頭にメスが十何頭というその数でも喧嘩をしないでバランスを保って平和な世界

をつくっている。それと安家の地大根という冬場貯蔵して食べるという醍醐味ですね、こういうものが指定されています。餅文化圏、伊達藩の特徴なんですけど、実によく数多く餅を食べる日本でも有数の餅文化圏でもあります。

○地方は個性で差別化

最終的には地方の個性をどう活かしていくか。言葉の伝統、食事の伝統、生活・くらしの伝統とありますが、こういった伝統をどう活かしていくか。そういうことによって差別化を図る。観光で人を呼んでいく。人がどんどん減ってきていますから、外から人を呼ばないと売上が上がらない。売り上げを上げるためにはやっぱり観光なんです。その為にもこういう特徴のあるものを程度準備しておかないといけない。厚木ではB級グルメで80万人の人を呼ぶって話ですから、そうとう力があるんだと思います。最終的にはいろんな重層ネットワークを集結させて、知恵をたくさん集めてやっていく。地域には地域のやり方がそれぞれあると思います。企業とかいろんな団体やネットワークに入っていると思いますから、そのようなものを活用しながらやっていくということです。

大変長らく御静聴頂きましてありがとうございます。

4. 企業の地域貢献表彰式

○褒賞制度の概要の紹介

(地域づくり課)

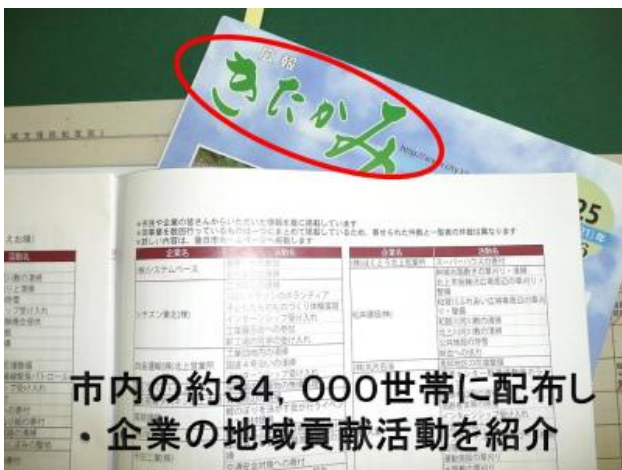
それでは只今から平成 22 年度北上市地域貢献活動企業功績賞表彰式を行います。表彰に先立ちまして、私の方から褒賞制度の概要につきましてご紹介をさせていただきます。

・活動の目的

北上市地域貢献活動企業褒賞制度は、地域への貢献活動に顕著な功績があった企業を褒賞し、その取り組み内容を広く市民の皆様や企業の皆様にお知らせすることによって、協働によるまちづくりの意識の醸成を図ることを目的とし、平成 20 年度から北上市と北上市協働推進市民会議との協働により進めて参りました。今回が 3 回目になっております。

・応募のメリット

具体的には、企業や団体が取り組んでいる地域貢献活動を市のホームページや広報紙で広く市民に紹介し、感謝の意を表すこと、そしてエントリーのあった地域貢献活動から特に優れた活動に対しまして、地域活動企業であるということを示す認証マークを添えまして、表彰するという 2 つの取り組みから構成されているのでございます。



・エントリーの応募状況

平成 25 年度におきましては、9 月 17 日から 11 月 19 日までおよそ 2 ヶ月間の間に、地域貢献活動の情

報提供の呼び掛けや功績賞のエントリーの募集を行いました。結果 295 件の地域貢献活動をご紹介頂くとともに 22 社から 61 件の活動を功績賞にエントリーして頂きました。情報提供ならびにエントリー頂いた市民、企業、団体の皆様には改めまして御礼を申し上げます。



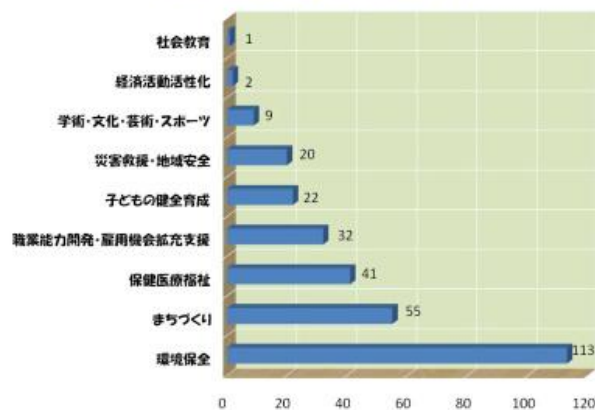
たくさんの情報
ありがとうございました!!

項目	2010年度	2009年度	増減
情報提供	企業数	64社	67社 ▲3社
	活動件数	295件	295件 0件
登録 (エントリー)	企業数	22社	24社 ▲2社
	活動件数	61件	56件 5件

・今年の傾向から分かること

次に情報提供頂いた活動の内容についてですが、今年度活動頂いた活動の傾向を見ますと、環境保全活動が 113 件、そしてまちづくり活動が 55 件、保健医療福祉活動が 41 件という状況になっておりまして、上位 3 活動は昨年度と同じような傾向になっております。この他にも、雇用機会の拡充支援、子どもの健全育成など住民生活や地域が抱えている課題に直結するような分野においての活動を頂いております。

情報提供いただいた活動の分類



このように多くの企業の皆様には、たくさんの地域貢献活動を頂いておりますことに感謝の意を表すとともに、市民の皆様にはもっともっと企業の皆様

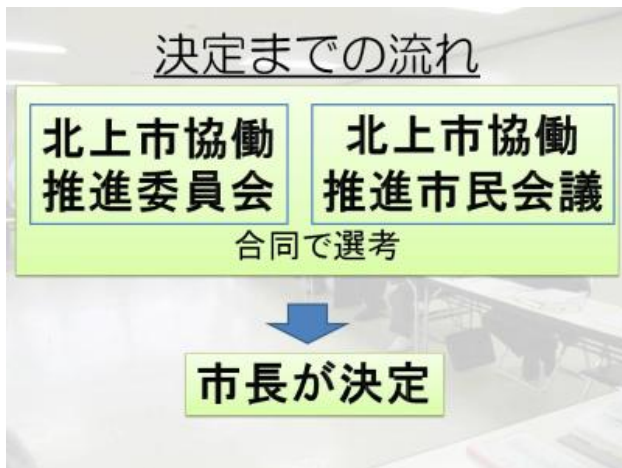
の活動を知って頂けるようにこれからも、少しでも取り組んで参りたいと思っております。以上が制度の概要と、今年度のエントリーの状況でございます。

続きまして、今年度の功績賞の選考にあたってのポイント等につきまして選考会を代表致しまして、北上市協働推進市民会議の会長を務めております高橋敏彦様からその内容をご説明頂きます。

○選考のポイントについて

(北上市協働推進市民会議)

皆さんこんにちは。北上市協働推進市民会議と北上市の協働で選考会をさせて頂きましたので、代表して選考のポイントの方をお知らせしたいと思えます。選考の6つの視点ということでございますが、まず私たち協働推進市民会議の構成は市民活動団体の中から数名、地区交流センターを代表される方々から数名という構成でございます。



・選考の6つの観点

情報を出されたすべての企業の皆さんは、素晴らしい貢献をされていますが、この6つのポイントと言いますのが、市民活動団体あるいは地区交流センター、自治会の方々が「こんな貢献のありかたがあったらいいな」という願望が入っています。

それはどのようなことかと言いますと、1つは「貢献性」というところであります。これは会社としてお金だけではなく、従業員の皆さんや機材など、どの程度提供や貸し出しがあったかということでございます。次に「効果性」ですが、これは事業をすることによって地域が、あるいは社会がどんな良い変

化があったのかということです。それから「公益性」というのは、人数、地域の広さといった広がりになります。「必要性」といったところでは、地域の皆さんから要望がどういう形で出されたのかというようなところ。それから「継続性」ですが、何年ぐらい継続されているのか。最後は「協働性」というところであります。特に市民活動団体や地域の皆さんとの協働性ということで、市民や地域と連携した活動であると効果性も高くなりますので、ここは重要視されておりました。

選考の6つの視点

項目	内容
貢献性	会社としての持ち出しがどのくらいあるか
効果性	活動が、地域社会をよりすみよく、暮らしやすくすることのどのくらいの役割を果たしているか
公益性	どのくらいの人が利益を受けることのできる活動か
必要性	地域や活動に対するニーズがどのくらいあるか
継続性	継続して行われている活動か
協働性	市民と企業間などの連携や協働があるか、ある場合はその役割分担やバランスは望ましいものか

・平均点について

どんな平均点であったかですが、1項目5点満点でございますので、その5点に比べてどの程度あったかをご覧いただければと思います。特に協働性の平均が2.19点でしたが、この部分が今後上がってくると効果性、あるいは貢献性も上がっていくのではないかと考えておりますので参考にして頂ければと思います。

今回の平均点

項目	点数
貢献性	2.74
効果性	2.87
公益性	2.14
必要性	3.18
継続性	2.87
協働性	2.19

以上で審査のポイントをご紹介致しました。どうもありがとうございました。

(地域づくり課)

ありがとうございました。それでは、今年度功績賞にエントリー頂きました活動と、功績賞を受賞された活動につきまして映像にまとめておりますのでご覧頂きたいと思っております。

○今年度の活動紹介

今年度のエントリーされた企業、団体の地域貢献活動の紹介をスライドで行いました。

○表彰式

功績賞を受賞された7団体には、伊藤彬市長より、表彰状並びに地域貢献活動企業認証プレートが授与されました。

また、功績賞にエントリーされた15企業・団体には、感謝状が贈呈されました。

<地域貢献活動 企業功績賞>

- ・ALSOK岩手株式会社北上支社
小学校あんしん教室開催活動
- ・岩手東芝エレクトロニクス株式会社
地域とはじめる環境報告会開催活動
- ・株式会社小田島工業
高齢者住宅の除雪ボランティア活動
- ・北上調理師会
「北上コロッケ」普及活動における「北上市」PR活動
- ・株式会社ケー・アイ・ケー
協働による地域づくり活動
- ・有限会社柴田工務所
黒沢尻西小学校創立50周年記念中庭整備活動
- ・トヨタ紡織東北株式会社
地域行事参加交流活動

(敬称略)

<地域貢献活動 感謝状>

- ・旭ボーリング株式会社
手押し式井戸ポンプの設置

- ・岩手建設工業株式会社
草刈り及び清掃活動、除雪作業
- ・岩手スリーエム株式会社
子ども科学館、インターンシップ、口内屋まつり協力 他
- ・株式会社岩手日建工業
地域ふれあい活動・除雪ボランティア活動
- ・北上駅前商店街振興組合
花と緑のフラワーロード
- ・社団法人北上市シルバー人材センター
樹木の剪定、草刈り、草取り
- ・北上信用金庫
当金庫野球部による野球教室(小・中学校)
- ・北上ハイテクペーパー株式会社
各種イベント無料記念撮影・プリント配布
- ・こみや会
清掃活動(アドプト)
- ・株式会社サトー北上工場
高等学校事業所見学会
- ・株式会社佐藤組
建設業ふれあい事業、除雪作業、測量実習手伝い 他
- ・株式会社システムベース
講師派遣、献血、芸能まつり参加、祭り寄付、清掃活動
- ・株式会社フジネ建設
除雪活動、草刈り・清掃活動
- ・丸片機水工業株式会社
北上市花いっぱい運動への参加、職場実習受け入れ 他
- ・明治製菓株式会社
工場見学の受け入れ

(敬称略)

5. 感謝のあいさつ

北上市長 伊藤 彬

3 度目になりますが、今年も地域貢献活動の会をさせて頂くことができました。多くの皆様に集まり頂きながら、この会の趣旨を理解して頂き、そしてまた、功績賞に受賞された皆さん、感謝状を受賞された皆さんの活動に理解して頂く機会ができましたことを大変嬉しく思っております。多くの皆さんが北上市のまちづくりにご参加して頂いていることを心から感謝申し上げます。

先程の映像でも説明がありました受賞された各社は、それぞれの企業を通じて、それぞれの地域を通じて、多くの従業員の一緒になって活動を続けておられております。種類はさまざまありますが、このまちの発展の為に大変重要なことばかりであります。改めて心から感謝を申し上げたいと存じます。

まちづくりを進めていく上で、さまざまな場面に遭遇いたしますけれども、たくさんの企業の方、団体の方、会社の方、さまざまな部門でいい事をやってくださっていると思います。

感謝を致しておりますけれども、これをもっと形に表すことはできないだろうか、そして多くの市民の方にご理解頂いて、その輪が広がることになれば、これは大変いいことという思いにずっと駆られて参りました。

まず感謝しようよ、という発想の中から市民協働推進会議の皆さんの協力を頂きながら、若い職員が一生懸命考えたこの活動のあり方でありました。いざ審査、その前の募集活動にあたってみますと、想像以上に多くの皆さんが素晴らしい活動をしていることに気が付きました。大変嬉しく思いました。そしてこの感謝の会が、別のもっと深まったかたちでまちづくりの発展に関係していただければ、これはまた大変面白いことになるなという思いでスタートしたのが3年前でございました。

本日受賞されました皆さま方の活動は、なるほどと思うことばかりであります。この活動にヒント

を頂きながら、私達の地域でも、私達の会社でも何か活動に出来たらいいなと思いに駆られて頂ければ、それはまた大きな効果かなというふうにも思っているところであります。

ぜひこれからも活動も皆様と共に進んで参りたいと思います。よろしくお願いを致します。



ご活動頂いている部分はさまざまですが、今年は間もなく雪どけを待つて展勝地が美しく開花をします。多くの観光客の皆さんが北上市において頂きます。展勝地に会館として運営なさっていますサトウハチロー記念館の佐藤館長が、よくおっしゃいます。「桜の期間ものすごい人が来るよね。でも次の日の朝見るとゴミ落ちていないよね。これは北上市民の美意識の高さだよ。環境大事にする意識の高さだよ。」と誉めてくださいます。北上来てみろ。きれいだろ。と宣伝してくださいます。大変うれしいことでもあります。このことを一つにみても多くの場面で同じようなことが見受けられます。それも日頃に対する大きな美化意識に対する、環境保全に対する大きな力添えだろうと思っております。

そして夏になるとお祭りがきます。お祭りの少し前に今年はインターハイの陸上部門の会場が北上にあります。平成11年のインターハイの開催に際して、全国から来て頂いた皆さんにきれいなまちですね、という評価をして頂きました。そして、こういうまちでもう一回競技場に來られたらいいね。という思いを持ってお帰りを頂きました。その時の選手は来ないでしょうが、おそらく監督役員の方で訪れる方が

いらっしゃると思います。その時のイメージが、変わってないね、もっとキレイになったね。と言われるような夏にしたいというふうに思っております。今日健勝された皆さんは、そんな想いもたくさんお持ちだろうと思います。ぜひよろしく願いを致します。

北上市も全国の都市同様、高齢化が進んで参りました。しかし、元気であることが大変いいなと思っております。安心安全で元気に暮らせる要素がいくつかあります。そんな中で今日受賞された皆さんは、高齢者を大事にしよう、安全安心のまちをつくるためにお手伝いをしよう、という活動をなさってくださいしております。これもこれから大変重要なことであります。心から感謝の敬意を称したいと存じます。

さまざまな活動を通して、おいでいただいた企業の皆さんが地域に溶け込んで、地域に触れ合っており、活動して頂くのは企業集積の高いこのまちとして大変うれしいことであります。そして、この姿勢が企業の皆さんにお持ちいただけることはわたしどもとしても、もっともっと何かしなきゃならないな、という思いに駆られる部分もあります。おいでいただいた企業と地場企業との結びつきも大変重要なことでありますけれども、市民の結びつきも大変大きなことだろうと思っております。そういう面でも行政としてのあり方もこれから充分に考えて進めていかなければと、改めて思った次第でもあります。

ご活動の分、お礼を申し上げる内容が少ないかもしれませんが、行政として、あるいは市民協働推進会議の皆さんとして、心から感謝を込めてありがとうございますと申し上げ、ご挨拶にさせていただきます。

6. 功績賞受賞企業、団体による活動の発表

OALSOK岩手株式会社北上支社

「小学校あんしん教室開催活動」

本日はこの様な場に立たせて頂きまして大変感謝しております。ありがとうございます。

私の普段の仕事は機械警備といいまして、ご契約先様の建物の中に取り付けたセンサーなどから異常警報が出た場合、実際に現場に駆け付ける仕事をしております。その業務と平行いたしまして、本日発表させていただきます「あんしん教室」の活動も行っております。それでは早速、私どもの「あんしん教室」の活動についてお話をさせていただきますと思います。



・活動紹介

「あんしん教室」は企業市民、警備会社として社会的責任を果たすため、そして子どもたちには防犯を意識してもらおうきっかけづくりに、また先生や保護者の方には防犯教育のノウハウ等を提供することを目的とした活動になっています。

この活動は2004年10月から神奈川県でスタートしまして、全国へ展開しました。岩手県では遅れること2005年10月北上市立黒沢尻東小学校様でスタートしました。

すでに岩手県内では延べ100校、人数にしまして約1万5千人の児童が授業を受けております。北上市では先ほどお伝えしました黒沢尻東小学校様を始め、6年間で6校、3286名の児童が授業を受けております。来月は和賀東小学校様で授業を行う予定が入っております。

「あんしん教室」というのは、子どもたち一人一人に防犯意識を持たせ、気づきを与えることが授業の目的となっております。ロールプレイング形式で行うことにより子どもたちに具体的に体験してもらうこと、そしてより深く理解してもらうため、各クラス単位で授業を行うことを特徴としております。

授業では子どもたちに普段の生活に潜んでいる、危険に気づかせ安心して暮らしていけるためのアドバイスをしていきます。授業内容としましては現在3つあり、①安心して登下校編②安心してお留守番編③安全なまちって何だろう？編があります。

<活動の目的>

守りのプロである当社社員を、講師として派遣して、地域児童の防犯意識を高めることを目的として実施しました。



①安心して登下校編では低学年向け、高学年向けに授業を行います。内容としましては、登下校中に潜む危険について子どもたち自身が、「自分の身は自分で守る」という危険回避の心構えをしっかりと学べるようになっていきます。これは警視庁の方で発案致しました、「イカのおすし」というキーワードを中心に授業を進めていきます。

②安心してお留守番編は中学年向けに授業を行います。留守番に対する心構えを当社独自で発案した合言葉、「いい湯だな」をキーワードとして、また留守番中の電話応対を学びます。スタッフが不審電話から不審電話ではない電話までの2パターンを実際に行い子どもたちとのやり取りからその対処方法を学びます。自分の家そして自らの身を守るということ子どもたちに認識してもらう授業です。

③安全なまちって何だろう？これは高学年向けに授業を行います。この授業では子どもたち自身が、まちに潜む危険な場所や場面などを考えていきます。

子どもたちが考える漠然とした危険な場所を「なぜその場所が危険なのか」そして、「その理由はなぜか」「ではどうしたらいいのか」を気づかせるための授業です。そして現在、命の大切さをテーマとした新たな授業の立ち上げを検討しています。

<活動の内容>



ALSOKグループでは経営理念である、ありがとうの心を実施し、企業の社会的責任を果たす為に警備業で培ったノウハウ等を提供し、安心、安全なまちづくりにこれからも貢献して参りたいと思えます。本日はどうもありがとうございました。

○岩手東芝エレクトロニクス株式会社

「地域とはじめる環境報告会開催活動」

日頃は大変お世話になっております。また本日はどうもありがとうございました。

我々岩手東芝は北上の地にお世話になって37年になります。37年を迎えているということと、従業員が1800名という会社でございます。ご案内の通り、北上工業団地の方でございます。敷地面積が30万㎡ということで東京ドームが6個半ぐらいという敷地の中で操業させて頂いています。半導体工場ということでございますので、24時間の操業になっております。

東芝の色々な所に製造部隊がございます。他社依頼の海外展開されている中で、お陰さまで東芝は国内の製造にこだわっているということで、この岩手の北上の地が一番北の拠点ということで操業させて

頂いています。37年間という歴史で、37年前に進出させて頂き、その後建屋を建ててきています。我々が作っている半導体はなかなか皆さんの目に直接触れることは無いだろうと思いますが、車を始めあらゆる電気製品には、我々が作った半導体が使われています。これまで作りあげた37年間、このような半導体の累計が100億個に最近達成した、ということでございます。



・活動紹介

今回表彰を頂いたという活動がこちらでございます。色々な企業さんもされていると思いますが、手前どもも6年連続してこの様な形の報告会をさせて頂いています。岩手県環境生活主催ということで、昨年も11月2日に地域住民、近隣企業、行政の方々含め25名の参加を頂き、我々の会社の環境への取り組みを説明させて頂きました。

地域とはじめる環境報告会

「地域とはじめる環境報告会」は、今年で6年連続の開催となりました。

- 【開催の経緯】**
岩手県環境生活部主催の企業向けリスクコミュニケーション活動の活性化の取組みに賛同し講習会等に参加し、環境報告を近隣住民へ報告する場を、当社会場で開催する事になりました。
- 【報告活動の内容】**
工場の環境負荷やその低減に関する取組みについて近隣住民の皆さまの意見をお聴きし、お互いの理解と納得を深める、いわゆる「環境コミュニケーション」を推進します。



11月2日に地域住民、近隣企業、行政、計25名が参加

我々の直接作っている工場の中でございますとか、CO2の削減ということで重油からエルエルに転換したプラントを見て頂きました。また、工場から

でる廃水を処理するための排水処理施設をご覧いただきながら、手前どもの環境への取り組む姿勢を紹介しました。

我々は北上市の方に立地をして37年ということになりますが、北上市さんとは全国に先駆けて公害防止協定を行政と結ばせて頂きました。その後に「いわて地球環境にやさしい事業所」ということで認定を受けたり、色々な形で活動が一定の評価を受け、平成21年に環境大臣の方から循環型社会形成推進功労者賞を頂きました。

地域とはじめる環境報告会

【環境報告会の様子】



これが今回の表彰の対象ということでございますが、その他の活動についても説明だけさせて頂ければと思います。

150万本の森づくりということで、東芝が2025年に創立150周年を迎えるため、地球規模で活動をしようと思ったものでございます。これについては一昨年と昨年に、岩手県さんと北上市さんと東芝で協定を結ばせて頂いて、活動させて頂いています。5年間で和賀スキー場の山に9000本の木を植えさせて頂きました。昨年は伊藤市長に参加頂き食事もさせて頂きました。

CSR活動(環境保全)

環境保全活動沿革

- 1984年 クリーンルーム第1棟完成
- 1985年 北上市と公害防止協定締結
- 1984年 廃棄系有機溶剤処理
- 1996年 排水処理汚泥サイクル開始
- 1997年 ISO14001外部認証取得
- 2000年 廃棄物ゼロエミッション達成
- 2000年 ISO14001認証取得(第1回)
- 2003年 ISO14001認証取得(第2回)
- 2005年 ISO14001 2004年版切替完了
- 2005年 「いわての地球環境にやさしい事業所」岩手県知事認定
- 2006年 ISO14001認証取得(第3回)
- 2008年 ISO14001(株)東芝セミコンダクター社統合認証
- 2009年 循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰受賞
- 2010年 北上市と環境保全協定締結

当社は、1985年に全国初となる行政(北上市)と企業間での「公害防止協定」を締結しました。昨年には、北上市で「環境保全協定」を締結しています。

- 従前より環境活動に鋭意取り組んでおり、ISO14001環境マネジメント審査を取得しております。
- 2005年には、「いわての地球環境にやさしい事業所」として岩手県知事認定を受けました。



環境活動 清掃活動(毎年5月) 従業員と家族による清掃活動

あとは北上教育委員会さんが主催されています北上市民大学で、20期の節目に手前どもの社長が話をさせて頂く機会を頂きました。ということで、改めて弊社の概要を説明させて頂きました。これも地球環境ということで次世代に健全な地球を残す、渡すということが我々の責務だろうということで、子どもたちに自然の素晴らしさを理解頂こうということで、二子小学校の児童と親御さんにご案内をして、NHKのテレビに出ているプロの自然案内人の方に自然の素晴らしさを説明頂きました。これも引き続き今年も継続してやって行こうと思っています。

当社のCSR活動の紹介

今年から口内町の「あぐり夢くちない」さんと、和賀町の「よってげ市」さんの産直から出前を頂いています。毎週水曜日は定時の16時半に帰るようになっていますので、帰りがけには駐車場で美味しく安心して、安全、新鮮な地産地消ということでご協力をさせて頂いています。

当社のCSR活動の紹介

我々の社会貢献、会社の社会的責任という形で従業員の Integrity ということで、平たく言うと誠実、

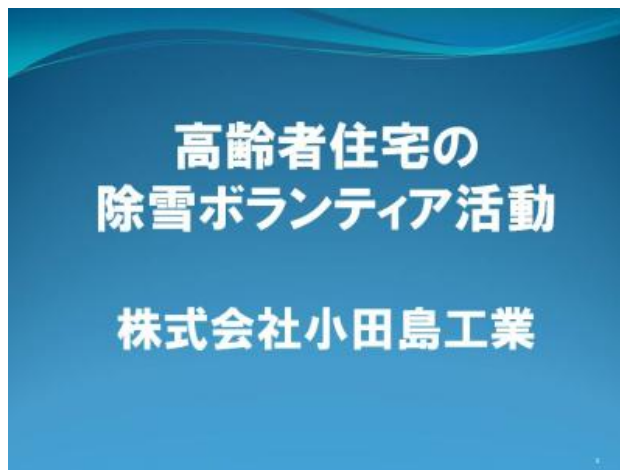
健全ということです。いわゆる常識、良識ある社会人、当たり前のことを当たり前にするのが我々会社にとっての社会貢献であります。

引き続き今後ともよろしくお願い致します。

○株式会社小田島工業

「高齢者住宅の除雪ボランティア活動」

本日は誠にありがとうございます。それでは私の方から高齢者住宅の除雪ボランティア活動の活動報告をさせていただきます。



・活動紹介

今年もそうですが、昨年も大変雪の多い年でした。この活動のきっかけと致しまして、一人暮らしの高齢者や身体が不自由な方にとって、雪が多い時は、通路の確保や屋根からの落雪の除去は大変困難であるということで、ここの地域も大変雪が多いところがございますので、会社として困っている方に何か出来ることはないかと考えました。

<活動のきっかけ>

1人暮らしの高齢者や身体が不自由な方にとって、雪が多い時は、通路の確保や屋根からの落雪の除去は困難。



私たちは建設業でございますので、建設業の技術や機材を活用した除雪により、冬場の困難を解決したいという思いから実施させて頂きました。

まず2月10日北上市の建設業協会さんと一斉に一度ボランティアをさせて頂きましたが、日を改めて13日にも除雪作業を行いました。



大変雪の多いところでございまして、屋根から落ちた雪が隣の敷地までいってしまいました。この時は除雪機とダンプトラックを使って除雪を行いました。

またその他の活動と致しまして、平成22年の2月に岩崎地区で開催されました、「灯りとお城のフェスティバル」の準備協力の依頼を受け、花火打ち上げ場所までの道路会場駐車場の除雪を行いました。

その他にも平成17年から鬼の館で開催されます「福豆鬼節分会」のイベント協力もさせて頂いております。平成21年2月には映画「いのちの山河」の除雪の協力もさせて頂きました。

また、弊社は建設業の他にガソリンスタンド事業も展開しております。冬期の期間になると、皆さんスタッドレスタイヤを車の方に装着されると思いますが、そのスタッドレスタイヤも3年目4年目になりますと表面が固くなってきて、滑って危険であります。そういったものを、新品同様によみがえらせる機械がありまして、平成21年11月に社会福祉法人わがの里様の利用者送迎車輛のスタッドレスタイヤの摩耗状況を点検させて頂きまして、その中から2台分のタイヤ研磨作業を実施致しました。

そして平成22年にはほっと東館様の送迎車輛の

方もタイヤ研磨をさせて頂いております。

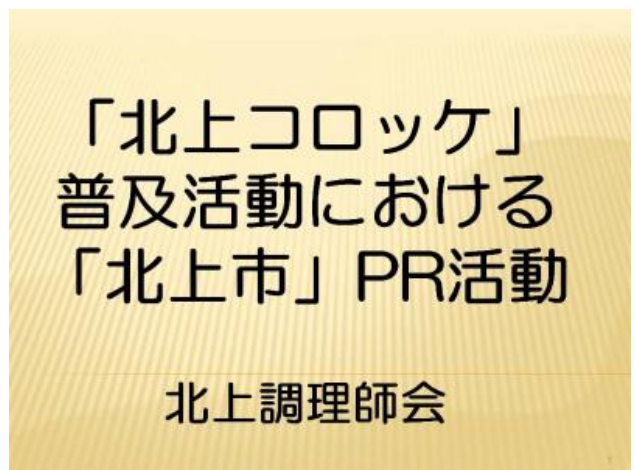
活動の成果と致しまして、実施した地域の方、また高齢者の皆さんに大変感謝されました。除雪ボランティアは毎年実施しておりますが、地域の民生委員からの依頼も年々件数が増加しています。できる限り要望に答えて今後も続けていきたいと思っております。

そして、今後の取り組みと致しまして「地域の悩み」を「地域ニーズ」と捉え、日頃お世話になっている皆様へ弊社ができる恩返しとして、活動していきたいと思っております。また、福祉施設等の車輛のタイヤ点検と研磨ボランティアも引き続き続けていきたいと思っております。以上でございます。ご清聴ありがとうございました。

○北上調理師会

「北上コロッケ普及活動における

北上市PR活動」



本日はこの様な表彰を頂きまして、本当にありがとうございます。

「北上コロッケ」普及活動における「北上市」PR活動ということで受賞させて頂きましたが、北上コロッケは、新しい北上の名物をつくらうということで、青年会議所さんから依頼を受けました。6年前のスポレク岩手に向かって何か作って欲しいという話を承り、調理師会青年部を中心に開発致しました。

・活動紹介

このコロッケを使い、全国に「北上」を PR できないかという考えから行った事業でございます。今現在さまざまな市内・市外のイベントに参加しております。北上コロッケを販売することで「北上市」を PR して参りました。昨年、厚木市で行われた「全国 B-1 グランプリ」にも参加致しまして、1 万 800 個のコロッケを売って参りました。個数としては 10 位以内に入るのですが、42 団体の出場の中順位を頂くことができませんでした。「なんだ！北上コロッケは順位を頂けないじゃないか！！」とお叱りを頂きましたが、実は北上コロッケはお土産品として持って帰る人がすごく多かったという事情がありました。

<活動の内容>

昨年、厚木市で行われた「全国 B-1 グランプリ」にも参加しました。



というのは、いつも 1 個 200 円で販売しているのですが、前回から全国 B-1 グランプリは 1 個 300 円～400 円の値段設定がされました。そこで、コロッケ 1 個 300 円で売ろうという話もでしたが、それはちょっと厳しいだろうということで、2 個で 400 円という 2 個売りをしました。そんな中で箱詰めにしたものですから、皆お土産に持って帰ってしまったということです。愛 B (アイビー) リーグの方からはお土産品もあっていい。42 種類全部食べられる訳じゃない。という指導もあり、お土産品に徹しました。今後は順位に入る様に一生懸命頑張っていこうと思います。

昨年 9 月には、いわて B 級ご当地グルメ in きたかみにも参加し、多くの方にコロッケを召し上がって頂きました。この際も午前中売り切れるほどの盛況ぶりでした。市外でのイベントの場合は、北上市の観光パンフレットを同時に配布することに

より、北上への観光客誘致へつながっていると考えております。

<活動の内容>

昨年 9 月には、いわて B 級ご当地グルメ in きたかみにも参加し、多くの方にコロッケを召し上がって頂きました。



また、昨年からでございますが今まで廃棄していた二子いもの「頭芋」を流通させることにより、二子いもの農家の皆さんにとっても、新しい収入につながると考えています。芋頭を使っているのだから安くなるのではないかというご指摘もありますが、実は加工にかなりのコストがかかっております。1 キロあたり 800 円ぐらいの原材料になっていますので、なかなか原価として安くならないのが現状でございます。

北上調理師会は、北上の新しい名物として「北上コロッケ」の普及に取り組んでおります。これからも地産地消運動や名物開発の推進等に力をいれてまいります。また、今年度の 5 月に青森県で、北海道東北 B-1 グランプリがございます。それにもほぼ参加することが決定しております。その際は、是非順位を狙う為に皆様のお力をお借りできればと思っています。実は去年の横手の東北大会で、前日は 5 位という評価を頂きましたが、2 日目になって岩手町さんの方で市から大型バス 2 台の応援隊が入りました。6 位以内が発表だったのですが、それに入れなかったという経緯がございました。今回は岩手県の北上市も頑張っているというところを見せるために、調理師会として張って行こうと思いますので一つご協力のほど宜しくお願い致します。

また、北上調理師会という団体は昭和 37 年に設立されまして、昭和 47 年に社団法人岩手県調理師会北上支部ということで法人化しております。北上市内

で現在 200 名（内西和賀町 50 名ほど）の団体で、実は会費でまかなっている団体でございます。我々は利益事業ではなく、みんなボランティア状況でやっております。

その他に「萩の江学園」の訪問と、また各料理講習会を開催しながら地域の皆さんと連携しながらやっているとございます。

今後とも北上調理師会を応援して頂きたいと思っております。本日は本当にありがとうございました。

○株式会社ケー・アイ・ケー

「協働による地域づくり活動」

皆さんこんにちは。本日はありがとうございます。本日は「農楽工楽クラブと一緒に地域に根づいた協働活動」と題してご紹介させていただきます。

当社の紹介

沿革

- 1992年7月 関東自動車工業と石川工業の共同出資で設立
- 1993年9月 自動車部品の生産開始
- 1992年7月 関東自動車工業100%子会社化

製品名

- 足回り部品 (Frサスペンション・Riアクスル・ガソリンタンク等)
- ボデー部品 (センターピラー・ロアバック等)

現従業員数：335人
平均年齢：31歳

敷地41千㎡ 建屋21千㎡

最初に私どもの会社を少し紹介させていただきます。1992年に設立されました。会社の名前の由来は、Kは関東自動車、Iは石川工業、最後のKは株式会社という意味もあるのですが、我々北上の地ということで北上（市・川）といったイメージで付けております。主な製品は車の足回り部品、モデル部品などをつくっております。従業員は300人ちょっとの会社です。

主な製品を紹介させていただきますと、左側に車の絵がございしますが（スライド）岩手工場の各部社でつくっている車の部品がこの様にたくさんあります（スライド）。その中身は、走る、停まる、曲がるという機能をもった、お客様に安心して乗って頂くた

めの重要ファームをたくさんつくらせて頂いております。

当社のCSRの方針ですが、当社としての活動としてはやはり信頼されるモノづくりの他さまざまあり、今回は地域社会への貢献ということで2009年ごろから本格的に力を入れて活動しております。今日は地域社会との共生というところに力を置いて活動を紹介させていただきます。

当社が設立されてから現在までの地域活動の歴史ですが、特に2009年から協働ということ意識しながら活動をして参りました。こちらは（スライド）2010年の活動人員をグラフにしたものですが、特に緑色のところが協働ということを重視した活動になっております。この協働活動の中で、やはり農楽工楽クラブさんの支援もあり継続できたと思っております。現在では計画的に毎年、年中行事のように活動できるようになっております。

こちらは（スライド）2009年と2010年の参加人員を比較をしたグラフですけれども、やはり協働というところに力を置いてやりまして、この様に2010年は参加人員が大きく増えています。こちら右にありますのが（スライド）社内広報であります、今まで参加してくれた人に感謝の気持ちを込めて、社内に流しております。

昨年との比較

地域貢献した活動は社内ニュースで展開

・活動紹介

それではこれから活動の中身を簡単にご紹介させていただきます。まず始めに、黒岩地区との協働Iということで、黒岩地区の皆さんと総勢60名で北上川の清掃をしました。サイクリングロードや河川敷の清

掃をしました。

次に黒岩地区との協働Ⅱは、黒岩地区さんで「水車まつり」が毎年行われるのですが、ここに我々を実行委員として加えて頂き、企画、計画までやりながら運営、後片付け、反省会まで地域の方とできたのが良かったと思います。



黒岩地区との協働Ⅲは「くろいわ芸・農まつり」ということで、こちらにも実行委員3名が参加し、準備や運営等をやらせて頂きました。こちらの右の写真は（スライド）当社で担当しました焼きそばの店になっております。



次は口内地区との協働Ⅰですが、りんごの摘花作業、夏野菜の収穫を致しました。丁度真ん中にケー・アイ・ケーの野菜畑をつくって頂きましたので、野菜をたくさんつくらせて頂いております。そこで植えるのも収穫するのも地域の方と協働で行っております。

次に口内地区との協働Ⅱは、当社は溶接の会社なので灯籠を自分たちで作りまして、「浮牛城まつり」

で飾って頂きました。



口内地区との協働Ⅲは秋野菜の収穫ということで、今度はケー・アイ・ケーの方で全部収穫して、地区のセンターをお借りして芋の子汁を皆でつくって地元の人に食べて頂きました。全て設備は借り、料理の仕方は地域のおばちゃんに教わりながら楽しく行いました。



最後ですが、ケー・アイ・ケーの中で小さいながら夏祭りを行っております。今度4回目になるのですが、地元の方の太鼓、それから鬼剣舞、産直も来て頂いています。来年の夏ごろに行いますので是非皆さんお越し頂ければと思っております。

まとめですが、「人は、人に評価され、感謝され、必要とされていることに幸せを感じる」と言われています。地域の暖かい声で「ありがとう」と言われると更なる継続に繋がると思います。

地域協働活動が、当社従業員の「人の役に立った！やり遂げた！」という気持ちを産むことで人財育成に大きく役立っていると思います。

北上市、農楽工楽クラブ様にいつも感謝しております。本日は、本当にありがとうございました。ケー・アイ・ケー社員一同でございました。ご清聴ありがとうございました。

○有限会社柴田工務所

「黒沢尻西小学校創立 50 周年記念中庭整備活動」

黒沢尻西小学校 創立50周年記念 中庭整備活動

有限会社柴田工務所

まずは中庭整備活動の発表をする前に、弊社を少しご紹介させて頂きたいと思っています。ご年配の方々には「しばちょう」という屋号で親しまれて、創業約 100 年営業をさせて頂いております。営業種目と致しましては曳家という建物の移動工事という、特殊工事を中心としてこれまで営業をさせて頂いております。その他、基礎工事、該当工事、道路工事等も行っております。従業員はたったの 7 人しかおりません。7 名のうち 1 人以外は柴田の血を引く人間で、完全にファミリー企業ということで、細くも長く営業をさせて頂いております。小さいながらも熱い志を持って頑張っている企業でございますので宜しく願い申し上げます。

・活動紹介

それでは、中庭整備活動をご紹介させていただきます。今回活動のきっかけということで実際にこの様な状況で、今回は黒沢尻西小学校の 50 周年記念事業と協働でこの活動を始めさせて頂きました。当初実行委員会の委員長と 2 人でこの現場に足を踏み入れました。自分の母校でもございますので「非常に懐かしい」という思いの反面、非常にコンクリートが腐

食し、部分的に鉄筋がむき出しになっている状況、そしてまたコンクリートは平板が割れていたり段差になったりと、子どもたちが笑顔で駆けまわられる中庭ではありませんでした。実行委員会の委員長に聞くと、やはりここ数年は中庭に児童がまったく立ち入ることができない状況になっていたそうです。

<活動のきっかけ>

黒西小の中庭のコンクリート構造物などの老朽化や腐食に伴い、ここ数年児童が立ち入ることができない状況でPTA等でも課題にあがっていました。



そのために実行委員会から要請がございまして、二つ返事で快諾をさせて頂きました。スケジュールにつきましては、私もPTA会員の一人でございますので事業部会というところに配属をされまして、6月から7月PTA会議、そしてまた実行委員会の皆様で主に企画変更をさせて頂きました。7月から弊社作業員の方でバックホウやダンプを搬入させ、解体作業をさせて頂きました。そしてこの8月に、私たちが壊したコンクリートを搬出させる作業を教員、PTA会員等含め総勢 100 名近くの方にお集まり頂きながら活動をしました。

<スケジュール>

先生方、PTAの皆さんと以下のスケジュールで実施しました。

- ・6～7月：企画検討
- ・7月：中庭コンクリート構造物の解体作業
- ・8月：教員、PTA会員、弊社作業員総勢100名で解体物の撤去作業
- ・9月：中庭ステージ壁の塗装作業
コンクリート舗装の路盤整備
- ・10月：インターロッキングの敷設作業
- ・11月：教員、PTA会員、弊社で敷設作業(2回)、
既設コンクリート構造物運搬撤去処分

今回こちらの資料、スクリーンの方には記載はしておりませんが、株式会社スパット北上様にも大変

ご協力を頂きました。コンクリートから4 t車にして10台分を無償にて引き受け処分をして頂きました。

<活動の内容>

- ・7月、8月に弊社作業員が、バックホウ等を使って解体作業を行いました。
- ・また解体物の撤去や、ローラーを使った整地など、先生方、PTAの皆さんの作業を専門的な立場からサポートしました。



続きまして9月に中庭ステージの壁の塗装ということで、こちらも八重樫建装さんという会社にご協力頂きながら技術指導をして頂きました。そして10月インターロッキングの敷設作業というところで、こちらも吉田コンクリート工業株式会社様にあったけのインターロッキングの材料を提供して頂いたり、格安で株式会社モリキョウさんにもご協力頂きながら何とか500㎡ぐらいの敷設作業をさせて頂きました。

こちらが活動の写真となっております。誰が誰だか分からない写真です。

<活動の内容>



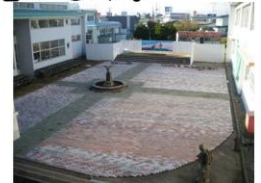
非常に私の好きな写真でございます。この中に校長先生、教頭先生、そして学校の教員、PTA会員、みんな写っています。先生方も皆ワイシャツを脱いで、タオルを巻いて、共に汗を流し、すべては1つの目的のために向かって皆で活動をさせて頂きまし

た。その目的のすべては子どもたちが安心して安全で、そして笑顔で駆けまわられるイメージをしながらやってきたからこそ、このような活動ができたのかなと思っております。

これが実際に完成した写真でございます。11月の式典の前日ようやく仕上がったというところで、皆様にはお披露目させて頂きました。今回このような活動を通しまして、自分たちで出来なければどんどん誰かに相談して、どんどん地域や地域の方々を巻き込み、企業を巻き込みながらみんなでこのような活動をすることが非常に大切なんだと感じる事ができました。

<活動の成果>

- ・閉ざされていた中庭を開放できることにより、児童の新たな学校での遊び場空間が広がりました。
- ・この中庭が、仲間づくりや思い出づくりの場になると思います。



今後も弊社は少ない人数ながらも一生懸命頑張り、地域の皆さんと共に北上をどんどん盛り上げていける様な活動をして参りたいと思っております。以上でございます。ご清聴ありがとうございました。

○トヨタ紡織東北株式会社

「地域行事参加交流活動」

それでは当社の地域貢献活動について報告をさせて頂きます。まずは会社の概要について説明したいと思います。

当社は1957年に株式会社池田製作所、当時の横浜工場というところで発足したのですが、その後社名の方を関東シート製作所に変更しました。この頃は、いわゆる神奈川県を主体として仕事をしてきた経緯があります。北上の方に進出してきたのは1991年1月に工場の用地を取得しまして、その後3月に

工場を新設、1993年9月には操業を開始しました。2002年になりますと、本社そのものが北上市の方へ移転しました。というところからお付き合いがあります。あと、変化点と致しましては、トヨタ紡織株式会社といのが当社の親会社になるのですが、その資本参加がありました。あるいは、2009年10月には完全に子会社となりまして社名の方もトヨタ紡織東北株式会社に変更したという状況でございます。

当社の地域貢献活動について

沿革

- 1957年2月：東宝堂165万円持ちこち株式会社(縫製内務(機織工場)として発足)
- 1959年2月：縫製株式会社(縫製第一工場)の発足
- 1960年9月：東宝堂縫製事業を東宝堂工業株式会社に譲渡(縫製工場)の譲渡
- 1969年10月：東宝堂工業株式会社に、縫製工場(縫製)を譲渡(縫製工場)の譲渡
- 1975年4月：縫製工場(縫製)を、縫製工場(縫製)に譲渡(縫製工場)の譲渡
- 1980年12月：縫製工場(縫製)を、縫製工場(縫製)に譲渡(縫製工場)の譲渡
- 1983年3月：岩手県北上市に北上市工場(縫製)を新設
- 1983年11月：縫製工場(縫製)を、縫製工場(縫製)に譲渡(縫製工場)の譲渡
- 1989年11月：東宝堂11,247万円譲渡
- 2001年10月：東宝堂工業株式会社の吸収合併
- 2001年10月：株式会社(縫製)を、株式会社(縫製)に譲渡(縫製工場)の譲渡
- 2002年4月：(2014年)に、株式会社(縫製)を、株式会社(縫製)に譲渡(縫製工場)の譲渡
- 2003年5月：(2014年)に、株式会社(縫製)を、株式会社(縫製)に譲渡(縫製工場)の譲渡
- 2008年11月：東宝堂工業株式会社の吸収合併
- 2008年12月：東宝堂工業株式会社の吸収合併
- 2008年12月：株式会社(縫製)を、株式会社(縫製)に譲渡(縫製工場)の譲渡
- 2010年4月：東宝堂工業株式会社の吸収合併
- 2011年1月：東宝堂工業株式会社の吸収合併

1. 会社概要

- 設立：1957(昭和32)年 2月 1日
- 資本金：16億67百万円
- 売上高：151億円(2009年度)
- 生産台数：266千台(2009年度)
- 従業員数：570名(2010年3月31日現在)
- 取締役社長：鈴木 栄次
- 本社所在地：岩手県北上市相去町平林15番13

生産拠点ですが、トヨタ紡織グループという言い方をしていますが、日本国内において東海地区はトヨタ紡織本体が受け持っています。あとトヨタ紡織九州、これは子会社が受け持ち、トヨタ紡織東北は当社が担当することになっております。中身としては本社北上工場があり、金ヶ崎の方には金ヶ崎工場があります。先ほど申し上げた神奈川県の一部拠点は4月から宮城の方に完全に移転しております。この宮城工場につきましては今年の1月6日から操業を開始したというできたての工場でございます。

また当社の製品ですが、関東自動車工業、岩手工場、あるいはセントラル自動車で生産される全車種の座席のシートやドアの内張り、センターピラーなどの部品をつくっております。

まず地域貢献活動に対する考え方ですが、基本理念にありますように、「よき企業市民として、社会や環境との調和に積極的に取り組む」ということ。あるいは、トヨタ紡織グループ全体で定めた行動指針なのですが、「会社や社員が社会への責任を果たすための行動指針」ということで、積極的にこの方針に基づいて行動しているという状況です。

具体的には今年度の会社方針を受けて、私自身の方針でもあるのですが、地域から信頼される存在感のある企業という中で地域密着型の地道な活動を展開していこうということ。あと、先ほどいいました宮城県の新しくできた工場との関係もありまして、森づくり活動をしています。この大きな2つの項目について今年は活動をしていこうということで方針を収めてみました。

目標につきましては、本日までたく受賞ということで叶いました。功績賞を受賞することができ、本当にありがたく思っております。またトヨタ紡織関係でいきますと、社会貢献賞も頂きたいと思っております。

今回の受賞対象活動とは少し違いますが、全体でどんな動きをしているかご説明します。こちらは(スライド)2010年の1月から12月に限ってですが、まず2月にはハイチの大地震がございましたので募金活動を展開しました。こちらはトヨタ紡織グループ全体でも行いました。また5月には社名が変わったため、旧制服をアフリカなどに衣料支援という形で送っております。あと、7月、10月は森づくり活動を行っています。新しい試みとしては9月に環境協会さんの工場見学ツアーの受け入れを致しました。ここでは24名の方に当社の工場の見学をして頂きました。

・活動紹介

《地域貢献活動A》白山神社「例大祭」受入



来客の方々の食事場所・飲料提供



当社敷地内での鬼剣舞の演奏

《地域貢献活動B》秋祭り交流



地元産物の「産物販売」



当社「秋まつり」の全景

それでは今回の受賞対象活動ですが、活動Aの白山神社例大祭の受入ということで平成8年から行っております。約40名の方にお越しいただきまして、

食事やバスの提供をしました。地域の方には鬼剣舞を踊って頂いたりもしました。

活動Bにつきましては秋祭りの交流ということで、当社の敷地内で産直を開きました。地元の農家の方にお越し頂いて野菜やお米の提供をしてもらい、当社従業員が購入するというようなことをしました。また、自社社員が模擬店をだし、焼きそばをつくり食べて頂きました。

続きまして、活動Cの白山の森保全活動ということで、地元のみなさん方と当社従業員 18 名が機材を持ち込んだ中で除草作業を行っております。これが皆さんの写っている写真と、草刈りをしている写真です。

最後の活動Dは、工場見学の受け入れということで、平成 10 年から続けて行っているのですが、去年は市内の小学生が「ものづくり探検隊」の一環として工場を見学して頂きました。会社の概要を説明した中で意見交換なども行いました。

《地域貢献活動C》 白山の森保全活動



「白山の森」付近の除草作業



作業終了後、相去自治会の方々と撮影

《地域貢献活動D》工場見学受け入れ



当社 生産製品の現物説明



当社 会社概要の説明

最終

以上で説明は終わりますが、まだまだ十分な活動をやっているとは思っていません。今回、他社さんの色々な活動をみて大変感心を致しました。そのようなところを参考にしながら今年以降、更に充実した社会貢献活動を行っていこうと思っておりますので宜しくお願い致します。以上で終わります。

7. 北上市の企業の地域貢献活動の特徴と

今後の展望

浅見 紀夫 氏

アドバイスではなく感想を申し上げる程度になると思います。企業活動が多いうえに、大規模な会社がありますので、活動の内容が企業の業種によって非常に特徴があるなど感心を致しました。私がいるところは、回りに田んぼや林しかないのので、そういう意味ではだいぶ感激させて頂きました。

最近、会社というのはCSRとか地域貢献を意識しております。大変立派な活動をやっておられると思います。しかもそのような活動を長い間（中には6年とか）継続していることが素晴らしいと思います。やはり我が社もそうなのですが、継続が一番大事です。地域との信頼関係を結んでいくためには、それなりの時間的な経過が必要であります。継続をするときに一番大事なのが、身の丈に合ったと言いますか、やれる所からやってみようという形です。

我が社のことをこの様な形で紹介すると、とても大規模なことはあまり無く、小さなことしかありません。例えば、地域にある身障者の施設で雑巾をつくっているの、フルールを集めて提供するようなことを相当な年数やっています。しかし、このようなことをすることによって地域との結びつきが強くなると思っております。そういう意味では、非常に大掛かりな地域貢献が多くて私もビックリしております。

また社員さんがメインで行っている活動では、信金さんの野球部の方々による地域の少年への野球指導がありました。これはおそらく野球部の方々の発案で始められたと思います。社員さん自身が考えて、地域の方々から色々な評価を頂くということが一番望ましい形ではないかと思っております。我が社でも交通安全についての有志が集まり、地域の子どもたちと話をしたり、ゲームをしたりしました。この活動は全国で表彰して頂きました。内容は私も詳しくは知らなかったのですが、このように継続してい

くことが大事なんだと、表彰を通じて感じさせてもらいました。

私が個人的に感激いたしましたのは、やはり北上コロッケです。食べ物ということもあるのですが、今まで食べていなかった二子芋の頭芋を利用して活用することは、大変立派な農商工連携です。調理師会は三次産業ですから、一次産業でつくられた芋をきちんと無駄なく使うということは農商工連携の一番力強い所であります。例えば農産物にA級品とB級品があるとすると、A級品は売れるけど B級品が売れません。そのとき、そのB級品をどのように活用するかをさまざまな勉強会でも教えているのですが、それをまさしく実行しているということで大変感心させて頂きました。

全体としては、とにかく会社の数が大変多くて295の活動に関わる方々が社会貢献のことで状況をご報告なさっているということが素晴らしいなと思います。感激するしかありません。

このような活動を今後、行政の方で継続していけば間違いなく地域の方々との関係というのは深い繋がりになるのではないかと考えております。こちらが私の今日の感想です。

最後に勉強させて頂いたのが、行政側が企業訪問を積極的に行っていくことです。我が社でも業種がらみで、365日工場見学を可能にしていますが、「ものづくり探検隊」というかたちで、中を見て頂くというのがお客様にとって一番分かりやすいのではないかと思います。「百聞は一見にしかず」とあるように話だけではなかなか分からない事も、中を見ることで何をしているのか、何処に力を入れているのが分かります。

本日お聞きした活動に敬意を表して私の感想にさせて頂きたいと思います。今日受賞されました皆様方、誠におめでとうございました。

<ふりかえりカードから>

○講演について

地域の産業への貢献と企業経営が密着に結びついており、更に県単位での広がりにつながっていること、しっかりした経営理念に基づいていること、将来の展望をしっかりと見据えていることを感じました。

表彰について

企業が事業活動にとどまらず、たくさんの地域貢献をしていることに感謝するとともに、その輪が大きく広がっていく事を期待します。

○はじめて参加しましたが企業の功績発表より、市内で行われている活きのいい活動を知ることが出来感激です。視野が広がりました。

まずは、本日の沿革を身近に周知・情報発信していきたいと思いました。

○見失われてきた共に助け合って生きてきた社会が、このフォーラムを通し共に支えあう芝生の芽が芽生え3年目で根が張ってきたような気がします。人間だけでなく生きるものすべての共生社会に向かっていることをこの運動を通して実感しました。関係する皆さんに感謝と敬意を表します。今後ともよろしくお願いします。

○今年もこの地域献活動に参加して年ごとに出席者が多くなっていることに多くの皆さんが感心を持っていることにうれしく思いました。私達も多くの企業や人達にふれあいながら地域を大切に、又活性化につなげていきたいと思えます。

○第3回目の表彰された団体に心からおめでとうと申します。まだまだ実績を上げている団体で推薦されないでいるものが埋もれているような気がします。来年は心して推薦したいと考えています。

○地域住民からのニーズが多様化する現在、行政のみでは対応しきれないのが現状である。そんな中、

紹介された企業、団体の活動によりそれぞれが持つ技術、設備を活かして大きな地域貢献ができるのだなと感じた。これからもこのような活動を推進すべく、表彰さらには何らかの形で援助していくことが重要なと思った。

○各企業の地域貢献活動を知る事が出来て大変よかった。企業が地域に入って活動する、社員が地元で地域活動をするこの整合性が取ればもっと良いのでは。

○各社の取り組み内容を知るよいきっかけとなった。弊社（明治製菓株式会社）もCSR経営を標榜しているので、今後も地道ではあるが継続していきたいと改めて感じました。

○企業の貢献活動を知ることが出来とてもよかったと思う。より多くの市民が参加してくれればいいと思いました。スケジュールが予定と違っていた。

○企業会社のモチベーションを発揮し、企業本来の事業を推進に地域住民の財政基盤を確信するとともに 一歩前進して企業の持つ技能、人材、時間を尽くして北上市民へ貢献なさっていること感謝申し上げます。

○初めてまちづくりフォーラムに参加させて頂きました。他社の活動を聞きこれからも自社でどのように活動していくか、会社に帰ってからみんなで考えて今後に生かしていきたいと思えます。

○協働、他業種、接点の少ないパートナーと接点をさぐる。アイディアを出し合う。協力できる部分を探り合う。小さな一歩から次の一歩へ。柴田工務所さんの発表がよかった。どうなりたい、なりたい方向へ仲間を巻き込む程。

○この催しに多くの市民の参加を望みます。